

## 会議結果のお知らせ

令和5年度第2回宮古市災害伝承協議会を、次のとおり開催しました。

令和6年2月29日

宮古市災害伝承協議会

### 1 開催日時

令和6年2月19日（月）午後1時30分～午後3時30分

### 2 開催場所

宮古市 市民交流センター2階 多目的ホール

### 3 会議の内容

- （1）報告 いのちをつなぐ未来館視察について
- （2）議題 宮古市災害資料伝承館の展示について

### 4 問い合わせ先

宮古市災害伝承協議会事務局 宮古市田老総合事務所地域振興係  
電話 0193-87-2971（直通）（内線 6213）

## 令和5年度第2回宮古市災害伝承協議会議事録

- 1 開催日時 令和6年2月19日(月)午後1時30分から午後3時30分
- 2 開催場所 宮古市 市民交流センター2階 多目的ホール
- 3 出席者 (11名)  
齋藤 徳美 会長、柳澤 忠昭 副会長、小岩 孝行 委員、  
佐々木 重勝 委員、戸由 忍 委員、敬礼 明男 委員、  
山内 霜子 委員、太田屋 滋 委員、武藤 元 委員、  
澤田 亮 委員(代理 赤沼 喜典)、伊茂野 達哉 委員
- 4 欠席者 (3名)  
藤田 千夏子 委員、坂本 百洪 委員、假屋 雄一郎 委員、
- 5 事務局 (8名)  
多田 康 企画部長、箱石 剛 企画課長、山崎 正幸 危機管理課長、  
北舘 克彦 文化課長  
(田老総合事務所)  
齋藤 清志 所長、山崎 俊幸 地域振興係長、  
上坂 春樹 主任、山本 美絵 主任
- 6 傍聴者 なし
- 7 議事等 13:30 山崎地域振興係長が開会を宣言  
13:31 議長挨拶(齋藤 徳美 会長)  
13:40 報告・協議  
15:30 山崎地域振興係長が閉会を宣言
- 8 結果 いのちをつなぐ未来館の視察について、事務局が報告。  
宮古市災害資料伝承館の展示について、展示項目検討案について協議し承認された。(詳細は別紙のとおり)

別紙 質問・意見等

質問・意見	回答
<p><b>報告</b></p> <p>(1) いのちをつなぐ未来館視察について</p> <p>(委員)</p> <p>いのちをつなぐ未来館は建設してから伝承活動をしているが、宮古市は学ぶ防災を先に事業実施している。伝承館と学ぶ防災を活用して事業展開してほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>コンパクトな施設。子どもがみんなで避難して助かったこと、防災センターに避難して多くの被害者が出たことを大きな教訓とし展示している。</p> <p>(委員)</p> <p>釜石のガイドは非常によかった。</p> <p>(委員)</p> <p>祈りのパークの芳名は印象に残った。</p> <p>鵜住居で子どもたちが避難し助かったことは自慢ではなく、教訓である。</p> <p>鵜住居には、打合せができる研修スペースはないが、宮古市の伝承館には研修するスペースがあるのは良い。</p> <p>教訓を伝承する人の災害発生時の気持ちが伝わる展示をしてほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>コンパクトな施設。釜石の出来事、防災センターの大きな被害、テーマコンセプトがわかりやすく、メッセージ性があった。</p> <p>海沿いの地震津波だけでなく、内陸の地震による被害の比較、台風災害などの展示により、命を守る行動のきっかけとなってほしい。</p>	

質問・意見	回答
<p>(会長)</p> <p>鶉住居の防災センターは、遺族の意向により解体となった。釜石市には震災遺構はないが、津波の高さがわかるモニュメントを作り、災禍を繰り返してほしくないという教訓を伝えている。</p> <p><b>議題</b></p> <p>(1) 宮古市災害資料伝承館の展示について</p> <p>(会長)</p> <p>田老地区は、当時一番高い防潮堤があり、津波遺構も、住居の高台移転も行い、津波先進地となった。</p> <p>田老地区に伝承館を作る意味を考えると田老地区の津波の展示は重要だ。</p> <p>伝承館の展示室の広さは、限られており、全ての災害の展示は難しいのでは。</p> <p>(委員)</p> <p>大きな地震が発生したら避難するよう子どもの頃から聞かされた。</p> <p>歩道から見えるところにあった津波の石碑が、道路工事の都合で見えにくくなった。</p> <p>(委員)</p> <p>地震で犠牲になった人は、なぜ避難しなかったのか。避難の放送が重要だ。</p> <p>(委員)</p> <p>震災を体験した高校生の朗読のイベントがある。そういった朗読が、ボタンを押せば聞けるようなものがあればよい。</p> <p>石碑の意味だけでなく、石碑を作った人の気持ちを来館者に考えてほしいという展示の仕方ができればよい。</p>	

質問・意見	回答
<p>(委員)</p> <p>田老の強みを活かしてほしい。</p> <p>他地域の伝承施設より、より良い伝承館ができれば良い。</p>	
<p>(委員)</p> <p>復興教育学習できた子どもたちがテーマを発見できるような展示を見て、何かを感じてもらいたい。</p>	
<p>(委員)</p> <p>内陸の災害も反映されているのでよい。</p>	
<p>(委員)</p> <p>展示しきれないものは、特別展で展示するなど工夫できるのではないか。</p> <p>平坦な場所と狭い場所、地理的な違いによる津波高さの違いがわかる展示があればよい。</p> <p>これまでの災害で、亡くなった理由、生き残った方法、災害のときに助かる方法を、宮古市が考えていることを発言、発信してほしい。</p> <p>田老町の歩んできた歴史が、日本の防災に繋がるので、それが伝わればよい。</p>	
<p>(委員)</p> <p>限られたスペースで展示を全て展示するのは難しいところです。</p> <p>ここまでのところで、コメントはあります。</p>	<p>(事務局)</p> <p>災害時に内陸から炊き出し等の食糧を提供したこと、消防団が沿岸への捜索協力をしたこと、そうした貴重な記録は残す必要があると思います。</p>
<p>(委員)</p> <p>事務局からございませんか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>昭和の津波で、臺目の青年団が、田老の応援に行ったという岩手県の記録がある。</p> <p>明治、昭和の津波のとき、国の取り組み、田老で何をやったのか調べると、田老に特化した話だけでなく、東京の土木に関する記録もある。来館者が、大人か、小学生か、どこからきたか、どのくらいの時間の説明か、ニーズに合わせた説明と展示ができればよい。</p>

質問・意見	回答
<p>(委員)</p> <p>鵜住居の未来館はトイレがない。 30人が入っても見るスペースがあればよい。</p> <p>(委員)</p> <p>東日本大震災、平成28年の台風などメインを絞って展示をする。 他の展示は、期間限定で展示してはどうか。</p> <p>(委員)</p> <p>1931年に川井地区小国で震源が浅い局地的な地震があった。内陸だけに発生する地震があることを知ってほしい。 最後の防災は、高台避難である。縄文時代から住居は高台にあり、低地には生活の遺物はなかった。 姉吉の石碑、田老地区の高台移転のパネル展示があると良い。 チリ地震津波では、ゆっくり引いてじわじわ増水した。津波経験者程避難しなかった。 小さい地震でも情報に注意して、避難することが大事であることがわかる展示があるとよい。</p> <p>(委員)</p> <p>委員の意見を聞いて、事務局からコメントお願いします。</p>	<p>(事務局)</p> <p>命を守るには、災害の歴史は伝えていかなければならない。 教訓を伝えることについて、災害で語られることはこれからも集めていく。 オープン後も資料収集していかなければならない。 強い地震のときだけでなく、弱い地震でも津波が起こることなど、展示に活かしていくよう考えたい。 地震津波に関しては、資料の量からも、明治29年、昭和8年、東日本大震災がメインと考えている。</p>

質問・意見	回答
<p>(委員)</p> <p>実物資料、展示の方針について、展示制作業者とやりとりが今後あると思います。</p> <p>大分類3つのテーマを柱に、今日いただいた意見をふまえながら、事務局が作業を進めていくことでよろしいか。</p> <p>(委員)</p> <p>異議なし。</p>	

15:30 田老総合事務所長が会議の閉会を宣言